

平成18年度事後評価結果（平成18年11月）

[研究開発課題名] ユビキタスコンピューティング環境を実現する基盤ネットワークプロトコルの研究開発

[委託機関名] 株式会社 横須賀テレコムリサーチパーク

項目	評価	総合所見
総合所見	A	<p>(技術関係)</p> <p>ユビキタスコンピューティング環境の基盤となる通信プロトコル、通信網基盤の構築技術に関する研究開発がなされており、個々の項目については、当初の目標以上の成果をあげている。本事業において研究開発された技術は、電子機器およびそれを用いた電子機器システムを構成する極めて根本的な基盤ソフトウェア技術と、基盤ソフトウェア技術と、ユビキタスネットワークの形成にとって重要な要素技術であり、高く評価することができる。また、開発されたコンポーネントとしての新規性も数多く存在するが、これらコンポーネント技術を統合化し、コンポーネントが良好に協調動作することを可能にした、システムの統合化技術に関する新規性を高く評価したい。</p> <p>本事業においては、すでに、多くの関連企業との共同研究開発を推進しており、関連する分野に対する大きな波及効果を持っている。本技術は、基盤性が非常に高いものであり、さまざまな業種ならびにビジネス領域への導入と応用が期待できるものである。すなわち、さまざまな産業セグメントにおいて、基盤要素技術として新しいイノベーションを誘導/誘発することが期待される。</p> <p>また、本事業における研究開発が、単なるプロトタイプシステムレベルではなく、ビジネス展開ならびに製品展開可能なレベルに近いことを鑑みると、費用対効果は、大変優れていると判断できる。</p> <p>また、電子タグのセキュリティ確保、リアルタイムなネットワークの自動構築、異なるRFIDの相互通信など主要技術に関する特許が押さえられており、技術的優位性は十分高い。</p> <p>さらに、数多くの論文・学会発表があり、研究成果に対して主要な賞も受けている。また、T-Engineフォーラム、ユビキタスIDセンターの設立による業界標準の促進とともに、ITU-Tにおいて国際標準化にも貢献している。研究成果の産業界への無償提供も含めれば、パブリックリターンは十分になされていると考えられる。</p> <p>研究開発に際しては、関連企業との密接な協力活動を展開しており、そういう意味における広い意味での人材育成にも大きく貢献していると言える。</p> <p>本研究開発が、ユビキタスコンピューティング環境の構築に寄与するとともに、産学連携の人材育成の拠点として国際的にも展開していくことを期待する。</p> <p>(事業化関係)</p> <p>わが国の組込み機器の半数程度に採用されているITRONの次期バージョンに位置付けられるT-Kernelを始めとした研究開発成果を用いて、オープンソース事業によるシェア拡大と、その後のライセンス供与により収益を得るという事業化計画である。収益計画においては、T-KernelのシェアをITRONのシェアの半数程度に設定しているが、オープンソース版を用いた他社による事業化までも含めると、ITRONと同様に組込み機器の半数に採用される可能性は高く、市場への大きな影響が期待される。</p>

(注) 総合所見の公表にあたっては、企業秘密等に配慮しています。